

## 吉田胎内樹型

吉田胎内樹型は剣丸尾溶岩流内にある 63 の洞穴群の一部です。吉田胎内樹型は船津胎内樹型から 700m ほど南東の上吉田に位置しており、富士山の構成資産として世界遺産登録されています。

最初に吉田胎内を利用したのは、丸藤宗岡講でした。この団体は、高田籐四郎（1706-1782）によって創始され、船津胎内と強い繋がりがあった丸藤講から派生しました。1892 年、丸藤宗岡講第八代先達の星野勘蔵氏は、吉田胎内を船津胎内の代わりとして採用し、吉田の御師もこれを支持したようです。

吉田胎内は吉田口登山道により近いところにあるため、巡礼者は船津胎内よりこちらを利用だろうと考えられたのかもしれませんが、胎内は両方とも使われ続けました。

富士講は、吉田胎内への訪問を様々な形で巡拝の旅程に組み込みました。ある団体は山頂に向かう途中に、またある団体は帰り道にここを訪れ、さらに登頂の前日にこの場所を訪れる団体もありました。

現在、吉田胎内は普段は入場できません。しかし、毎年 4 月 29 日に行われる「吉田胎内祭」では、希望者は誰でも洞穴の中を巡り、生まれ変わることができます。